

築島橋

橋梁形式：一径間下路式鋼桁橋
 架設年次：昭和5年6月
 所在地：江東区木場二丁目
 大島川東支川に架かる
 橋長：22.9m
 幅員：6.2m



現在の様子



現在の様子



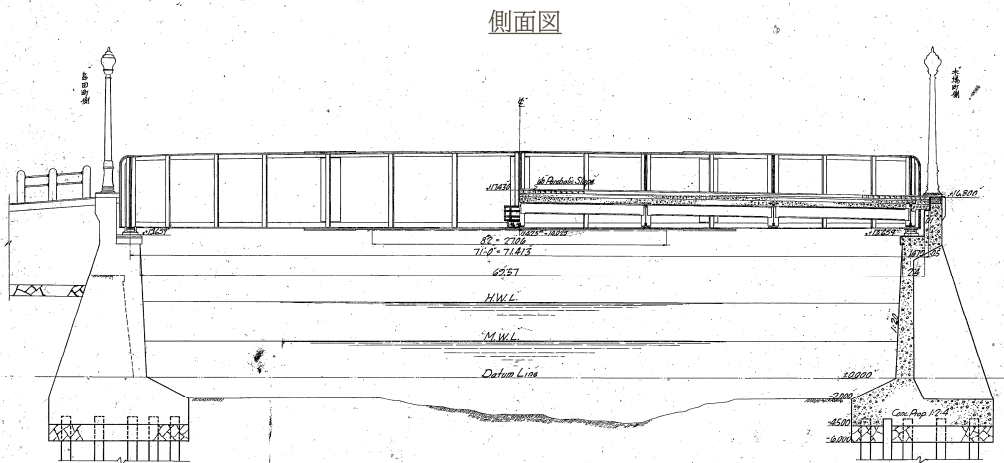
撮影年不明

築島橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

下路橋とは、通行路の位置で橋を分類した場合の一つで、通行路を桁などの主構造の下方に設けた橋のことです。

説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。



震災復興橋梁について

大正12年(1923年)9月1日の午前11時58分、神奈川県西部(または相模湾北西部)を震源とするマグニチュード7.9の大地震(大正関東地震)が発生しました。震災前、東京市の橋の大部分は木橋で、多くの橋が被害を受けました。

震災直後から昭和5年(1930年)にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。

東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。

一部の橋は、改修や補修を重ねながら、現在も都市の交通を支えています。



江東区に現存する震災復興橋梁(令和5年9月1日時点)



築島橋の諸元
 橋梁形式：一径間下路式鋼桁橋
 橋長：22.9m
 橋梁幅員：6.2m
 架設年月：昭和5年6月

